

## 県北地域で牛丘疹性口内炎が発生しました！

令和8年4月、県北家保管内で牛丘疹性口内炎が発生しました。

本病ウイルスの感染により、鼻、唇、舌などに丘疹(イボ)、潰瘍、びらん(ただれ)をおこします。

感染は、感染した牛との接触感染により広がるため、感染した牛をみつけた場合は、**回復するまでの間、他の牛と隔離**し更なる感染を防ぎます。

また、人にも感染するため、病牛に触れる際は手袋を着用し、作業後は手指の洗浄と消毒を行ってください。

なお、本病とよく似た症状を示す口蹄疫は牛で最もリスクの高い家畜伝染病であり、アジアの近隣諸国で発生が続いています。口以外に、ひづめ、乳房に水疱やびらんを認めた場合、**口蹄疫を疑い**、直ちに獣医師または家畜保健衛生所へ連絡願います。

【写真：牛丘疹性口内炎】



口唇部の癩痕



口腔粘膜の潰瘍



## 口蹄疫と牛丘疹性口内炎の違いは？

- 1 口蹄疫は、特定家畜伝染病で、感染力が極めて強く、発生すると、飼っている牛を**全て殺処分**することになります。**水ぶくれはひづめや乳房にも**みられます。また、牛、人、物の移動が制限され、地域社会や地域経済に深刻な打撃を与えます。
  - 2 牛丘疹性口内炎は、監視伝染病(届出伝染病)で、**殺処分はしません**。牛に感染し、**症状は口周辺に限局**してみられます。口蹄疫に比べ感染力が弱く、症状が回復すれば群に戻すことも、移動することも可能となります。
- ※ 口蹄疫でも、初期では口周辺のみ症状がみられる場合があります。疑わしいと思ったら、速やかに獣医師に相談してください。

## 疑わしい症状は直ちに通報を！

口蹄疫は牛や豚などで発熱や食欲不振に始まり、後に**泡状のよだれ**を流したり、**口、ひづめ、乳房に水疱(水ぶくれ)**ができるのが特徴です。

～牛の症状～

写真:宮崎県提供



<A型口蹄疫ウイルスの感染実験の結果>

写真:動物衛生研究部門提供



毎日必ず健康観察し、これらの症状を見つけ次第、直ちに**獣医師**や最寄りの**家畜保健衛生所**に連絡しましょう。

牛では、**1頭のみに着目せず**、泡状のよだれを多く流している個体が多い、上記の症状が急速に拡がるなど、**群としての異状の有無を確認することが重要**です。

連絡先: 岩手県中央家畜保健衛生所:019-688-4111、090-8926-2732  
岩手県県南家畜保健衛生所:0197-23-3531  
岩手県県北家畜保健衛生所:0195-49-3006